

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R 6 入学 現 3 年生	国語		数学		英語
	2 年時	3 年時	2 年時	3 年時	3 年時
	県	全国	県	全国	全国
	5 4.3	5 9.0	4 4.5	4 9.0	4 6 8
	(0.8 9)	(0.9 5)	(0.8 5)	(0.9 1)	
R8 正答率の全国比		0.9 2		0.8 5	

◎ 2 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、3 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

◎ 「中学校英語」は、3 技能「聞くこと・読むこと・書くこと」を統合した IRT（項目反応理論）に基づいて算出した IRT スコアを表示。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

・国語科では、すべての問題で全国の平均正答率を下回った。特に「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる」（読むこと）が 12.7 ポイント低い。「読むこと」の指導が必要で、思考力・判断力・表現力の強化が求められる。数学科では、「具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができる」（知識・技能）が 1.4 ポイント高い、「総合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができる」（思考・判断・表現）が 11.6 ポイント低い。根拠や理由をもとに筋道を立てて説明する力を伸ばす必要がある。

・意識調査では、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学びを考え、工夫することができている」、「放課後や学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために地域の図書館に行く」に肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均より高い。一方、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」、に肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均より低い。また、休日に家庭学習に費やす時間が短い生徒の割合が高い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・「授業づくりのステップ 1・2・3」等の授業改善リーフレットを活用した取り組みを推進する。

・ICT の効果的な活用法を高めていく。また、個別最適な学びと、協働的な学びの充実を図る。

・授業において「見通し」や「振り返り」の場面を設定し、主体的な学びにつなげる。

・実力テストに合わせて学習強化期間を設けたり、定期テストに向けた計画的な学習を進めたりするなど、家庭学習の内容と質の改善を目指す。また、各教科において、タブレットドリル活用して基礎・基本の学習を繰り返し行い、定着を図る。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

・朝の会や帰りの会等でフォーサイト手帳を活用して、見通しを持ち、自ら進んで学習や生活に取り組むことができるように支援する。タブレットドリルの活用により、家庭でも自分の学習を振り返り、予習・復習を進めていくように支援していく。

・「家庭学習の手引き」の配布、学校 HP への掲載を通して保護者と共に学ぶ意欲や姿勢を高めていく。

・朝読書や無言掃除を通して落ち着いた教室の雰囲気での授業を開始していく。

・各種行事において、生徒が主体的に取り組む場面をこれまで以上に設定し生徒のよさを認めていく。